

プロとして

仕事白書

嫌われても事故防ぐため「あら探し」

製品や構体の安全性が基準を満たしているかどうかの検査は、あら探しともいえる。依頼主から嫌われるのは仕方ない。それでも、大事を成すには、あら探しを繰り返すのが役割だ。

安全支える鋭い観察眼



計測器の微妙な異常に鋭く目を光らせながら、超音波センサーを小刻みに動かす小林さん。「検査結果は、その場ですぐに見極めなければいけない」という緊張の中、作業に励む＝新潟市秋葉区西古津(写真部・佐藤勇夫撮影)

- #### 小林さんのある日
- 7:00 ▶ 起床、朝食
 - 8:00 ▶ 出社、作業現場へ
 - 9:00 ▶ 打ち合わせ、検査準備
 - 10:00 ▶ 表面の傷を調べる浸透探傷検査
 - 11:30 ▶ 検査終了、依頼主に結果を報告
 - 12:00 ▶ 食事
 - 13:00 ▶ 検査準備
 - 13:30 ▶ 内部の欠陥を調べる超音波探傷検査
 - 16:00 ▶ 検査終了、依頼主に結果を報告
 - 17:00 ▶ 帰社
 - 18:00 ▶ 報告書作成、データ処理
 - 21:00 ▶ 帰宅、夕食、入浴
 - 23:00 ▶ 就寝

非破壊検査員は、日本非破壊検査協会(東京)が認定する技能資格を持つ技術者。資格は放射線や磁気、ひずみ測定など検査技術別に6種類あり、技術や能力に応じて現場作業員から総合責任者まで、3つのレベルが定められている。

同協会によると、非破壊試験技術者有資格者数は6万8450人(2007年4月現在、重複含む)。これまで6万人弱で推移してきたが、04年の中部地震以降は安全意識の高まりなどから、6万人を踏まえ、増加傾向にある。数多くの検査対象物に対応できる超音波、浸透剤を扱う技術者が全体の過半数を占めている。現場責任者を務められるレベル2の技術者は7割に達するが、検査業務全般を管理できるレ

廃棄物削減にも効果

レベル3の技術者はわずか1割にとどまっている。

国内には、専門の検査会社が300社程度あるとされる。県内にも10社ほどあるが、個人で資格を取得し、小規模ながら個人経営で検査する技術者もいる。

検査機器の扱いや検査方法の原理を理解するには、工業高校卒業程度の知識が求められる。一つの検査技術を身に付けるまでには、およそ2、3年。検査結果を1人で診断できるようになるまでには、5、6年が必要とされる。複数の検査をこなすには、それ以上の期間を要する。

工業製品や建築設備などの安全性を点検し、早期のうちに保守や補修を施せば、延命化や資源の有効活用を図ることにつながる。廃棄物削減の効果が見込まれることから、環境に配慮した技術としても活用が期待されている。



記事へのご意見、ご感想をSNS「アメカゴ.net」で募集します。SNS内の「プロ」として、仕事白書「コミュニティ」で、投稿をいつでも受け付け、参加者同士の意見交換もできます。「アメカゴ.net」のアドレスはhttp://www.amekago.net/。会員登録後のページ「コミュニティ」検索から「仕事白書」を検索してください。これまで通り、ホームページはhttp://www.niigata-nippo.com/pro/。手紙は〒951-8620 新潟市中央区西蒲通3-78-9540でも受け付けています。

▼いただいたご意見はHPに掲載したり、要旨を紙面に反映したりすることがありますのでご了承ください。掲載でのアクセスはこちらから

依頼主のためだけでなく、それを用いる人々の安全を守る検査員だと思ってる。生活や入浴にかかわる事故を防ぐ責任は重い。

新設工事を事後、メッキや養生シート、ホテルマン、自動車修理工など、職を転々とした。その仕事も3年以上続かなかった。求人誌で偶然見つかった「非破壊検査」の言ひひか、二十八歳の新設検査士業、新潟市東区に入社した。

検査対象は建築資材や工業部品が

「安全が脅かされる前に検査し、欠陥に気付かなければ意味がない。この仕事が目指すのは、社会的にやむを得ないが起きたとき、一線の下の手持ちのままでいいが、要諦はしたくない。」

眼鏡の裏の鋭い観察眼が、検査を終えるまで急ぐ。

検査部・金子 哲
水産白堀 聡

ながら、先端の技術を見よう見まねで習得した。真意は感じられず、スタンプ内部のガス漏れチェック、一万一落下すれば命は高い高所作業の水力発電機の管線点検。過酷な現場も数多くこなしてきた。

中では、責任者の勤怠シフトに生じた不具合の改善を働き、工期が迫る依頼主の補修作業に夜通しで付きまわされたこともあった。壁年の可能性のある化学プロセスの断点も、検出する責任を負った。技術の進歩、新品の取り置き、おやわの大型車を水磨で防いだこともあった。試験が課される仕組みだ。現在十一



放射線透過装置や超音波探傷装置など、検査器具の一部。センサーを当てることができ、検査対象の内部を知ることができる器具もある